

東京港臨海道路第1工区の整備がもたらした輸送時間の短縮と輸送費用の削減

とうきょう file01 東京港

対象施設 南部地区臨港道路（東京港臨海道路第1工区）
供用 平成14年

東京港臨海道路第1工区（大田区城南島～中央防波堤外側埋立地～同内側埋立地）を整備したことにより、輸送時間短縮と輸送費用削減により、合わせて年間約350億円の経済効果。

東京港臨海道路第1工区が、供用開始されたことによりレインボーブリッジの交通量が53,000台/日から44,000台/日へと約2割削減され、交通渋滞の解消に貢献。

また、環七大井交差点 青海ふ頭の移動時間が、供用前のレインボーブリッジ経由の30分から15分へ5割短縮された。



●日本経済新聞（平成15年7月7日）

豊かさ実現のために必要なインフラはほかにもある。東京・大田区の環状7号線と臨海副都心を結ぶ全長3.4kmの東京港臨海道路。開業1年余りで1日35,000台が利用する。『渋滞解消などによる経済効果は年300億円超で、建設費の1,500億円は5年以内に元がとれる計算』（東京都港湾局）だ。通行量が1日1,000～2,000台も珍しくない地方の新設高速道路との投資効率の差は明白だ。

●東京港臨海道路第1工区利用状況

平成14年12月12日撮影 / 撮影場所：城南島側掘割部

